

令和5年度中国地区公立学校教頭研究大会（島根大会）第4分科会

【研究主題】

『市内小中学校の連携による

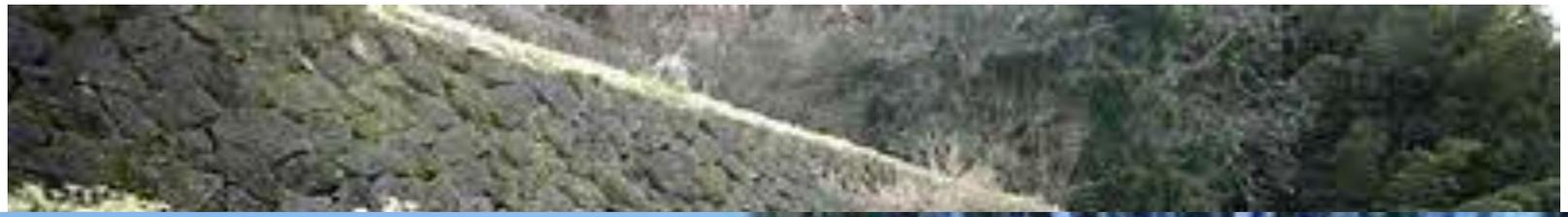
組織的な授業改善に向けた取組』

～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり～

大田市教頭会

大田市立大田西中学校 教頭 土井善浩

島根県大田市



1. 主題設定の理由

【研究主題】

『市内小中学校の連携による

組織的な授業改善に向けた取組』

～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり～

○『大田市学力育成プラン』の策定

大田市教頭会

大田市教育委員会が主体となり、令和4年度より3年計画で実施

○『能力ベースの授業づくり』の推進

島根県立大学人間文化学部 教授 齊藤一弥氏をアドバイザーとして、大田市内全ての小中学校において、『能力ベースの授業づくり』を推進

1. 主題設定の理由

【研究主題】

『市内小中学校の連携による

組織的な授業改善に向けた取組』

～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり～

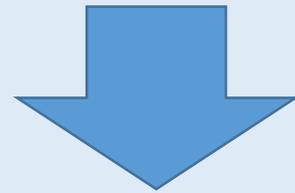
大田市教頭会として

大田市教頭会

各学校において『能力ベースの授業づくり』を具体的に実践していくために、大田市教育委員会と連携を深め、授業改善の組織的な取組につなげていくことを目的として主題を設定した。

2. 研究の概要（具体的な取組①）

大田市内全ての小中学校
『能力ベースの授業づくり』の実践



大田市教育委員会、齊藤一弥教授による訪問指導（通覧指導）

* 各学校において授業公開を行い、『能力ベースの授業づくり』の視点で指導をうける

大田市内全ての小中学校

『能力ベースの授業づくり』の実践

教頭会のネットワークで学校間をつなぎ、 『能力ベースの授業づくり』のノウハウを共有する

【大田市教頭会の取組】

- (1) 訪問指導における授業の様子や授業研究の様子、
齊藤教授からの指導内容等を情報共有
- (2) 共有された内容を各学校へ伝達、普及を図る。

【実践例】

通覧指導情報共有資料 1 朝波小学校発表資料 参照

通覧指導情報共有資料 2 高山小学校発表資料 参照

1 64年の月方考之成長を概観する



2 概念と教材の関係



3 なぜ図形で面積を扱った?

領域設定の根拠 ← 長方形の基底と高さ



①教材の価値 ②子どもの能力 ③指導の工夫

・1年算数「どちらが大きい」

属性への関心を持たせる・・・無自覚に判断している根拠⇒根拠を明確にして価値を確認する

通覧指導が行われた学校から順番に、概要をまとめていただき、大田市教頭会の定例会で発表（共有）した。

発表された内容を、各学校にもちかえり、その後の通覧指導、授業実践に生かした。

②県複式教育推進事業授業公開の指導案について

- ・同単元異内容の授業は相互の学年にとって有益であり、複式の良さを生かせる。
- ・今回の指導案の単元構成は、ゴールが違うのでこのままでは当てはまらない。同教材異内容の授業構成ならできるかも。

情報共有を生かした取組（例）

【大田西中学校の例】

- （１） 教頭会で共有した内容を、職員会議で共有し研修を行った。
他校の取組を参考にして、その後の通覧指導に向けて、単元のデザイン、学習指導案の作成に生かした。
- （２） 学習指導要領を読み直し、自分の担当する教科が、そもそも何のためにあるか、教科の価値とは何かを考える研修を行った。

単元のゴール

【単元ゴールとなる言語活動：ALTに身近な人のことを知ってもらうために、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合う】

【目的】身近な人のことをさらに深く知ってもらうために 【場面】新しく習った三人称単数現在形の表現を使って相手とやり取りをして 【状況】クラスメイトに紹介する

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。

意味・用法を理解して、身近な人について簡単に音声で紹介してから紹介文を書く。また、単元末にALTに身近な人のことを知ってもらうために、

相手に伝え合う活

育成すべき能力

知識
三人称単数現在形の肯定文の答え方の形・用法・意味を理解すること。
このような言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際

について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにすること。

を理解する。三人称単数現在形(否定文)の形・意味・用法を理解して、身近な人について簡単に音声で紹介してから紹介文を書く。

【第3時】

3. 身近な人についてたずねたり答えたりしよう(質問文)の形・意味・用法について即興的に会話できたりする活動を行う。

たせる。また、スピーチ質問すれば良いかを活動がスムーズにい

2. グループで自分たちの発表に活動がスムーズにい

3. ペアで身近な人についてのスピーチを行い、会話をする。

「単元の目標」

三人称単数現在形を使って自分の身近な人について選び、その人物を相手に伝えることができる。

does he like?とたずねれば、話題を広げることができるね。

単元の系統性

小学校 外国語科

自分のことを、簡単な語句や基本的な表現を用いて、できるだけたくさん話すことができる。

本単元

中学校 第2学年

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えることができる。

中学校 第3学年

社会的な話題について、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句を用いて述べ合うことができる。

3. 成果と課題

(1) 『能力ベースの授業づくり』のポイントの共有【成果】

各校の授業実践後の研究協議において、齊藤教授から指導助言されるポイントは、各教科を通じて共通する点が多く、教頭会において共有することができた。

【共有すべきポイント（例）】

- ・ 「何を教えるか」ではなく「育成すべき能力は何か」を考えてスタートする。
- ・ 『能力ベースの授業づくり』のプロセスの理解。
- ・ 「Why」「What」「How」について

Why「なぜ」を問う・・・何ができるようにするのか。能力ベースのゴールをイメージ。

What「何を」を確認する・・・学習すべき内容を明らかにする。

How「いかに」を描く学習方法の確認・・・いかに授業を描くか。

3. 成果と課題

(2) 『能力ベースの授業づくり』に対する実践意欲の高揚【成果】

- ・ 情報共有を図ることをとおして、その後の通覧指導や授業改善に生かすことができた。
- ・ ポイントを理解したうえで、学習指導案の作成や授業づくりに取り組むことができ、具体的な実践につながった。



実践意欲の向上

**研究推進体制確立に向けた
意識の改善**

3. 成果と課題

【発表後の感想より】

- ・「活動しているけれど、学びになっていない」という言葉に考えさせられた。やはり、指導要領を読み込んで、どんな力をつけさせたいかを考えていく必要があると感じた。
- ・「系統性」の理解が大切であると指摘され、図形領域に絞った研修を実施されたのは参考になりました。指導要領を読み込むこと、系統性を理解することで学びの連続性や必然性を捉えられるのだと思いました。「単元はあるものではなく描くもの」という言葉から、ゴールを明確にし、単元をデザインする力の重要性を感じました。
- ・内容を理解できるようにしたいと思うのは当然ですが、そこからスタートすると内容ベースの授業になるのだと思いました。「なぜこの単元があるのか？」といったところから考えた経験がなく、私自身が学び直す必要があると感じました。能力ベースの授業について校内で情報を共有したり、進んで学び合ったりする機会を今後さらに大切にしていきたいと思いました。
- ・能力ベースについて説明される内容についてまだまだ理解しにくいところがたくさんあります。何かを少しでも前に進めるために、今日の発表にもありましたが本校でも先日、学年間の学習内容の繋がりについて確認を行いました。

3. 成果と課題

(3) 『能力ベースの授業づくり』を実践していく上での課題の共有【課題】

- ・ 組織的に研究に取り組む時間を確保することが難しい。
- ・ 意識はしているものの『能力ベースの授業づくり』に日常的に取り組むのが難しい。
- ・ 内容ベースから能力ベースへ移行していくことの難しさを感じる。

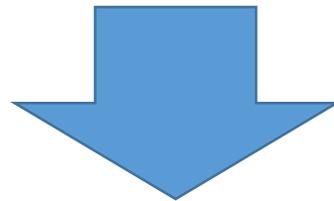


これらの課題は、多くの学校に共通する部分であることを確認した。

4. 課題解決に向けて（具体的な取組②）

多くの成果が見られる一方、『能力ベースの授業づくり』の推進に向けた課題に対して、大田市教頭会としてどのように関わりをもち、改善の方向性を模索していくかが重要であると考えた。

また、今後の展望として、実践を通じて出てきた意見や要望を事業主体である大田市教育委員会へ提案するなどの取組を検討した。



教頭会での検討確認事項

- ・ 教頭会における学校訪問指導（通覧指導）の情報共有は継続して行う。
- ・ 『能力ベースの授業づくり』の推進に向けた課題について、実施の主体である市教委に提案を行う。
- ・ 大田市教育研究会等と連携し、教科ごとの研修機会（学校外でのつながり）の設置を依頼する

4. 課題解決に向けて（具体的な取組②）

【大田市教育委員会への提案（案）】

(1) 「能力ベースの授業づくり」における目的（ゴール）の共有と授業づくり

これまで取り組んできた各校での「能力ベースの授業づくり」で明らかになってきた目的（ゴール）を市内小中学校で共有するとよいのではないかと考える。学習指導要領から能力ベースのゴールを探ることは重要であり、そのとらえ方は人によって異なる部分もあるが、そこから始めると教員の負担感が大きい。共有できる部分は共有し、授業そのものをどうデザインしていくかに力を注ぐことも重要だと考える。また、学習指導要領から目的（ゴール）を探る際の視点ともなる。そのために、大田市教委には、これまでの授業で明らかになった点をまとめ、ご指導をいただけないか。また、市教研各教科部会で共有できる場を設定することができないか。

(2) 市教研教科部会を主体にした「能力ベースの授業づくり」の研究推進

市教研各教科部会において、例年夏季研修会や授業研究会を実施している。そうした例年の取組を「能力ベースの授業づくり」に重点を当てて実施していくことはできないか。また、令和4年度学校単位で行った学校訪問指導（通覧指導）を、教科部会単位で実施することはできないか。各教科の教員が集まり、議論を深めることで具体的な実践につなげることが期待できると考える。

5. 令和4年度研究のまとめ

- 「能力ベースの授業づくり」のノウハウを共有することができたことは成果ととらえることができる。
- 「能力ベースの授業づくり」を実践していくうえでの課題を教頭会で共有し、事業実施主体である大田市教育委員会や大田市学力育成協議会に提案していく方向性を検討した。

大田市教育委員会と連携を図るところまでは進んだが、実際に教頭会で共有した課題を検討し、解決に向けた取組につなげるところまでは至らなかった。

【研究主題】

『市内小中学校の連携による

組織的な授業改善に向けた取組』

～能力ベースの授業づくりの実施に向けて、大田市教頭会としての関わり～

本研究をとおして、大田市教頭会のメンバーが協力し、研究主題の実現に向けて実践してきたことを生かし、今後もより良い教頭会の在り方を模索していきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。